



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分りやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ リニア中央新幹線工事に伴う大井川流量減少の対策について

今月は、リニア中央新幹線工事に伴う大井川流量減少の対策をめぐる、直近の状況についてご報告します。

先月中旬、静岡市はJR 東海に対し、リニア中央新幹線南アルプストンネルの準備工事に関する林道通行許可証を交付し、9月18日からその準備工事が始まりました。この件について、公表直後は、県も静岡市も「今回の工事は、作業員の宿舍建設等の準備工事であり、県や流域市町、利水団体などが懸念している『水問題』には直接影響のないものと認識している」とコメントしていました。しかし、その後静岡市は、「JR 東海が本体工事着手を要望した場合、県と合意に達していなくても、市が林道の使用許可を出す方針」とさらに踏み込んだ見解を示しています。

振り返れば、JR 東海は、大井川の流量減少対策を明記した下流利水者との基本協定が結ばれていない中で、昨年11月にはトンネル本線の工事契約を完了したばかりか、今回は、本体工事に向けた準備工事に着手したのです。これは、早期着工を目指すための見切り発車と言わざるを得ません。「本体工事に利水者の同意が必要というルールはない」として、地元合意なしでの本体工事着工に含みを持たせるJR 東海の対応と今回の静岡市の方針に、私は強い危機感を抱いています。

これまで大井川の恵みで、農林業・工業・観光業をはじめ、多くの産業が発展してきた島田市にとって、この川は、まさに“命の川”です。しかし、残念ながらJR 東海との直接交渉権は島田市にはありません(交渉権を持つのは、地先である静岡市と県だけです)。

そのため、昨年3月に大井川流域の8市2町と利水団体は、それぞれJR 東海に要望書を提出し、「トンネル湧水を確実に、そして恒久的に大井川に戻してもらいたい」、「それを協定書に盛り込み、約束していただきたい」、さらに「流量確保と水質保全に万全の対策を講じてもらいたい」と伝えましたが、いまだ、基本協定締結には至っておりません。そうした中、本年6月に突然、静岡市とJR 東海による「中央新幹線(南アルプストンネル静岡工区内)の建設と地域振興に関する基本合意書」の締結が発表され、先月の「リニア準備工事」の着手にまで至っております。

8月2日には、リニア工事に伴うトンネル湧水を“全量回復”させる確実な流量確保対策と万全な水質保全対策の徹底に向け、県の難波副知事をトップに、関係8市2町の首長、11の利水団体代表者で構成する「大井川利水関係協議会」が組織されました。今後、この協議会に静岡市が加わり「真のオール静岡」態勢になることを期待しています。

リニア実験線がある山梨県内では、水枯れなどの「異変」が多数起きています。現在の私たちの選択が、大井川流域の未来に繋がっていることを決して忘れず、責任を持って考えていかなければなりません。



大井川の起点

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

しまだ防災ねっとでは、7月に起きた西日本豪雨災害に対する支援募金活動を行い、集まった募金を次のとおり被災地窓口に送りました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。▷8月4日新金谷駅前実施分/2万8,609円を社会福祉法人広島県共同募金会へ▷8月5日島田本通5丁目交差点実施分/2万6,866円を岡山県共同募金会平成30年豪雨災害義援金へ9月3日に、「しまだ防災ねっと」と「島田市民の皆さん」

の名称にて振り込みを行いました。この募金が、少しでも被災地の復興に役立つことができれば、うれしく思います。(しまだ防災ねっと会長 山本こず恵さん)



本通5丁目交差点での募金活動